

者たちが連携できるかどうかの方が重要であると本調査の実施によりわかったからである。英米のオーラルヒストリー・アーカイブはそのような連携に成功し、オーラルヒストリーを支える広大なすそ野を作っていた。

オーラルヒストリーの研究者と図書館・博物館の司書・学芸員、アーキビストの連携は想像しやすい。しかし、それだけではなく、例えば、地域の図書館であれば、地域でまちづくりに参加している活動家等も巻き込んだ、オーラルヒストリーのネットワークが重要であろう。日本には、それぞれの場に地域のオーラルヒストリー・アーカイブを担うにたる人材がいると思う⁽⁷⁾。後はつながるだけだとも言える。そのつながるためのハブ機能を大学や図書館や博物館が担っていく。このような未来計画を共有することが、我々には求められているのではないか。

(1) “C.O.E. オーラルヒストリープロジェクト”. 政策研究大学院大学.
<http://www3.grips.ac.jp/~oral/>, (参照 2016-10-18).

(2) 御厨貴. オーラル・ヒストリー：現代史のための口述記録. 中央公論社, 2002, 207p, (中公新書).

(3) 梅崎修. オーラルヒストリーによって何を分析するのか－労働史における〈オーラリティー〉の可能性. 社会政策, 2012, 4(1), p. 30-42.
<http://ci.nii.ac.jp/naid/110009517678>, (参照 2016-10-18).

(4) “戦後労働史におけるオーラルヒストリー・アーカイブ化の基礎的研究 (基盤研究(B) 2011-2015 代表 梅崎修)”. KAKEN.
<https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-23330115/>, (参照 2016-10-18).

(5) 米国調査については、以下の文献を参照。
 梅崎修, 田口和雄. Regional Oral History Office (ROHO) のオーラルヒストリー・アーカイブについて. 生涯学習とキャリアデザイン, 2012, (9), p. 75-85.
<http://repo.lib.hosei.ac.jp/handle/10114/7039>, (参照 2016-10-18).
 田口和雄, 梅崎修. アメリカにおけるオーラルヒストリー・アーカイブ化の現状について－UCLA Center for Oral History Research (COHR) のインタビュー調査をもとに. 高千穂論叢, 2012, 47(1), p. 99-119.
 梅崎修, 田口和雄. コロンビア大学・CCOH (Columbia Center of Oral History) におけるオーラルヒストリー調査とアーカイブについて. 法政大学キャリアデザイン学部紀要, 2013, (10), p. 319-338.
<http://repo.lib.hosei.ac.jp/handle/10114/8015>, (参照 2016-10-18).
 田口和雄, 梅崎修. NYU Tamiment Library & Robert F. Wagner Labor Archives におけるオーラルヒストリーのデジタル・アーカイブ化について. 高千穂論叢, 2013, 47(4), p. 97-118.
 田口和雄, 梅崎修. The New York Public Library for the Performing Arts and the Ellis Island Immigration Museum におけるオーラルヒストリー・プロジェクトについて. 高千穂論叢, 2013, 48 (1・2), p. 311-323. (高千穂学園創立 110 周年記念論文集 I).

梅崎修, 田口和雄. MATRIX (The Center for Digital Humanities and Social Sciences at Michigan State University) におけるオーラルヒストリー・デジタル・アーカイブの試み. 法政大学キャリアデザイン学部紀要, 2014, (11), p. 279-296.
<http://repo.lib.hosei.ac.jp/handle/10114/8937>, (参照 2016-10-18).

田口和雄, 梅崎修. WSU Walter P. Reuther Library and Urban Affairs におけるオーラルヒストリー・プロジェクトとアーカイブの現状について. 高千穂論叢, 2014, 48 (3・4), p. 139-162. (高千穂学園創立 110 周年記念論文集 II).
 英国調査については、以下の文献を参照。
 梅崎修. 英国のオーラルヒストリー (1)－フリーランスのオーラルヒストリアンたちとの出会い. 生涯学習とキャリアデザイン, 2014, (12), p. 121-130.
<http://repo.lib.hosei.ac.jp/handle/10114/9552>, (参照 2016-10-18).
 梅崎修. 英国におけるオーラルヒストリー (2)－収集・整理・公開の方法. 生涯学習とキャリアデザイン, 2015, 12 (2), p. 121-130.
<http://repo.lib.hosei.ac.jp/handle/10114/10023>, (参照 2016-10-18).
 梅崎修. 英国におけるオーラルヒストリー (3)－Britain at Work : Voices from the Workplace 1945-1995 の活動. 生涯学習とキャリアデザイン, 2015, 13(1), p. 135-143.
<http://repo.lib.hosei.ac.jp/handle/10114/11593>, (参照 2016-10-18).
 梅崎修. 英国におけるオーラルヒストリー (4)－Centre for the Study of the Production of the Built Environment の活動. 生涯学習とキャリアデザイン, 2016, 13 (2), p. 103-109.
<http://repo.lib.hosei.ac.jp/handle/10114/12153>, (参照 2016-10-18).

(6) “労働史オーラルヒストリーアーカイブプロジェクト”. 大阪産業労働資料館.
<http://shaunkyo.jp/oralhistory/>, (参照 2016-10-18).
 以下の文献も参照のこと。
 梅崎修. 労働史オーラルヒストリー・アーカイブの試み－映像化の取り組みと資料の利用可能性を中心に－. 社会政策, 2016, 7(3), p. 102-112.

(7) 日本の公立図書館でも、既にいくつかの取り組みがある。
 ①今治市立図書館 (愛媛県)
 “タオルびと”. 今治市立図書館.
<http://www.library.imabari.ehime.jp/towelbito/towelbito.html>, (参照 2016-10-18).
 ②加賀市立図書館 (石川県)
 “加賀市オーラルヒストリー勉強会”. 加賀市立図書館.
<http://www.kagalib.jp/oralhistory/index.html>, (参照 2016-10-18).
 ③東久留米市立図書館 (東京都)
 “語ろう！東久留米 50 年前の東久留米の学校と子どもたちの生活”. 東久留米市立図書館.
https://www.lib.city.higashikurume.lg.jp/files/attach/files344_1.pdf, (参照 2016-10-18).
 “第 2 回 語ろう！東久留米 東久留米と戦争”. 東久留米市立図書館.
https://www.lib.city.higashikurume.lg.jp/files/attach/files508_1.pdf, (参照 2016-10-18).

[受理：2016-11-01]

Umezaki Osamu

What can We Learn from Oral History Archives in the US and the UK?

著作権法で認められる場合以外で、視覚障害その他の理由でこの雑誌を活字のまま読むことのできない人の利用に供するために、著作権者の許諾が必要な方は、国立国会図書館まで御連絡ください。

連絡先 国立国会図書館関西館図書館協力課
 住 所 〒619-0287
 京都府相楽郡精華町精華台8-1-3
 電話番号 0774-98-1449